

「瀬戸内の世界都市」目指す

今治市長・徳永 繁樹氏



——「BARI-SHIP 2025」の開催を間近に控えた今の心境を聞きたい。

「本イベントを特別後援している今治市海事都市交流委員会の会合において、主催者から『今回は過去最大規模の展覧が見込まれ、世界中の国々から多くの参加がある』と報告を受けた。今、改めてBARI-SHIPに対する世界からの『期待』を実感している」

「一方で、3月23日に長沢地区で発生した林野火災では、多くの方から『大丈夫か』との温かい声を頂いた。4月14日には鎮火を宣言し、現在は、梅雨入り前の土石流防止などの次なる対策に取り掛かっている。海事業界の皆さまから大変心強い『支援のお申し出を頂いており、心より感謝している』

海事を市民にPR

——BARI-SHIPに対して、どのような期待を持っているか。

「セミナーや企業ブースの発展に加え、水素燃料電池とバイオ燃料を利用したハイブリッド型電気推進旅客船『HANARIA』の寄港など、さまざまなコンテンツがあるが、最も重要なのは『人が集う』ことだと考えている。BARI-SHIPの知名度は高まってきたが、海事産業はBtoB（企業間取引）が中心で、一般の方にとって『海事って何』『海運や造船、船用工業って何』という印象がまだあると思う」

「BARI-SHIPでは、通常の展示会に加え、土曜日を一般の方向け

の『パブリックデー』として設定している。将来、海事産業を支える子どもたちにもアピールできる場であり、業界で働く方が自らの仕事を家族に紹介する機会にもなる。市民の皆さんには、これを機に私たちの暮らしを支える海事産業への理解を深めていただけたらと思う」

——今治市にとって海事産業とはどのような存在か。

「今治市のプレゼンス（存在感）を高めてくれる、極めて重要な産業だ。例えば、船主が造船会社に発注し、造船が活性化すれば船用機器メーカーの需要も高まり、雇用も広がる。こうした連鎖が、経済全体に広く恩恵をもたらすという『トリクルダウン理論』が成り立つと考えている。昨年は海事業界から市への多大な寄付も頂き、まちづくりの面でも後押しをいただいている」

「今治市は2005年1月、旧今治市と越智郡11町村が合併してから20周年を迎えた。その節目に当たる昨年、市内各地で記念イベントを展開する中で、『今治みらい発掘プロジェクト12』を実施した。市全域を対象とする15の地域（今治4、陸地部5、島しょ部6）で、地域の歴史・文化・食などの魅力を掘り起こすフィールドワークを実施。地域の重要な要素となる『ヒト』を最大化し、『発見』『共有』『創造』の3段階で、市民が主役となる地域活性化を促進した。これにより、海事業界に関わりのない市民にも、改めて今治と海事産業のつながりを認識してもらう契機になったと感じている」

発展ビジョン策定

——20年前に策定した「今治海事都市構想」を見直した。

「当時、12の自治体が一つになって『日本最大の海事都市』を目指す構想を掲げ、これまで一定の成果を上げてきた。その上で、次の20年を見据えた新たな構想として『今治海事都市発展ビジョン』を策定した。今治が将来どうあるべきか、その実現に必要な施策を多角的に検証し、ロードマップとして具体化した」

「例えば、今治港の利用拡大や、クルーズ船の誘致による市民の『海への親近感』醸成に向けた港湾整備などを想定している。今回のBARI-SHIPでは、水素燃料電池を搭載した旅客船『HANARIA』が寄港するが、今後は今治港をカーボンニュートラルポート（CNP）として、いまだ中四国にない『水素燃料供給の拠点』などの新たな機能を持たせることも視野に入れている。今年4月には、市の産業部内に『海事都市今治推進課』を新設し、本格的な取り組みを開始した」

——全産業に共通する人手不足への対応は。

「地方自治体がいくら努力しても人口は減少傾向にある。その現実を受け入れつつ、対策を講じる必要がある。昨年11月には『クロスステックラボ今治』を今治地域地場産業振興センター内に開設した。3Dプリンターや協働ロボット、自動搬送ロボットなどの設備を活用して、作業・設計工程などでの省人化による人手不足の解消を図っている」

「また、外国人技能実習制度や特定技能制度、今後始まる育成就労制度などを通じて外国人労働力の活用もますます重要になる。そのためにも、『多文化推進調整官』のような専門人材を民間から登用し、幅広い文化を受け入れ、海外の方が今治で『母国にいるような安心感』を持てる環境を整備していきたいと考えている」

——今治市の魅力・強みとは。

「今治は、海・山・島・森・平野といった多様な地勢が共存する希少な地域だ。こうした豊かな自然環境を背景に、海事産業をはじめ、タオル、塩業といった地場産業が発展してきた。また、サイクリングで注目を集め本州ともつながる『しまなみ海道』も大きな魅力であるように、幅広いコンテンツがそろっている」

「20年前、旧12市町村が一つになった際には、地域間でお互いを理解しながらも、その連携は必ずしも十分とは言えなかった。しかし、昨年の20周年記念事業を通じて『発見』『共有』『創造』を深めたことで一体感が高まりつつあり、今後はその力を結集し、『瀬戸内の世界都市』の実現に向けて全力で取り組んでいる」

とくなが・しげき 愛媛県立今治西高等学校、京産大経営卒。03（平成15）年愛媛県議会議員を経て、21年から現職。愛媛県今治市生まれ、55歳。